

仁木町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

仁木町においては、日常の買い物や通院を余市町等の町外に依存しているが、路線バスのバス停やJR駅までのアクセス性が低く、公共交通を利用できない地域も存在する。また、人口減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者は減少を続け、収支悪化による行政負担が増加している。このため、銀山地区における既存の路線バスに代わり、より持続性が高く、より利便性が高い交通体系を目指して、「仁木町予約制バス」の本格運行を開始した。また、令和4年4月より、予約なしで乗車が可能な定時定路線型での運行を開始しており、「仁木町バス(ニキバス)」を町の生活交通を支える新たな公共交通として、継続的に運行していくことを目的とする。

生活交通確保維持改善計画の目標

【目標①】ニキバスの運行経費(町負担額)を1,500万円/年以下とする。

※ 町負担額の実績は、H27年度(計画策定時):1,360万円/年

※ 利用者の増加を目指し、予約が必要な区域型から、予約なしで乗車が可能な定時定路線型に運行形態を変更し、一時的に運行経費の悪化が想定されることから目標値を「1,000万円/年以下」から「1,500万円/年以下」に変更

【目標②】ニキバスの利用者数を16人/日以上とする。

※ H25.10月～H26.9月の銀山地区における仁木町予約制バス利用者数は9人/日

※ 上記運行形態の変更に伴い、予約なし利用者の利用区間を把握することが困難となるため、目標値を「銀山地区における利用者数11人/日以上」から「全体利用者数16人/日以上」に変更(R2.10月～R3.9月のバス利用者のうち、銀山地区で乗降する利用者の割合は約7割)

(仁木町地域公共交通網形成計画 P22、23 を基に設定)

令和5年度事業概要

銀山～余市系統

区域運行、銀山地区～余市市街地、往復8便/日

【車両減価償却費等国庫補助】

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(仁木駅、然別駅、銀山駅)
- ・北海道中央バス(株)(町内2路線)、ニセコバス(株)(町内1路線)
- ・スクールバス(3路線)
- ・ハイヤー会社(1社)

協議会開催状況

令和4年6月28日 令和4年度第1回協議会

主な協議事項:ニキバスの運行計画・体制について、R5補助年度地域内フィーダー系統確保維持計画について

令和4年11月1日 令和4年度第2回協議会

主な協議事項:ニキバスの利用実態について

令和5年1月 事業評価(書面議決)

主な協議事項:ニキバスの事業評価について

令和5年2月24日 令和4年度第3回協議会

主な協議事項:ニキバス運行計画の改善検討結果報告

令和5年6月15日 令和5年度第1回協議会

主な協議事項:ニキバスのルート拡大等に係る検討項目、R6補助年度地域内フィーダー系統確保維持計画について

令和5年9月15日 令和5年度第2回協議会(書面議決)

主な協議事項:自家用有償旅客運送に係る更新登録について

令和5年11月8日 令和5年度第3回協議会

主な協議事項:ニキバスの利用実態について、

令和6年1月 令和5年度第4回協議会(書面議決)

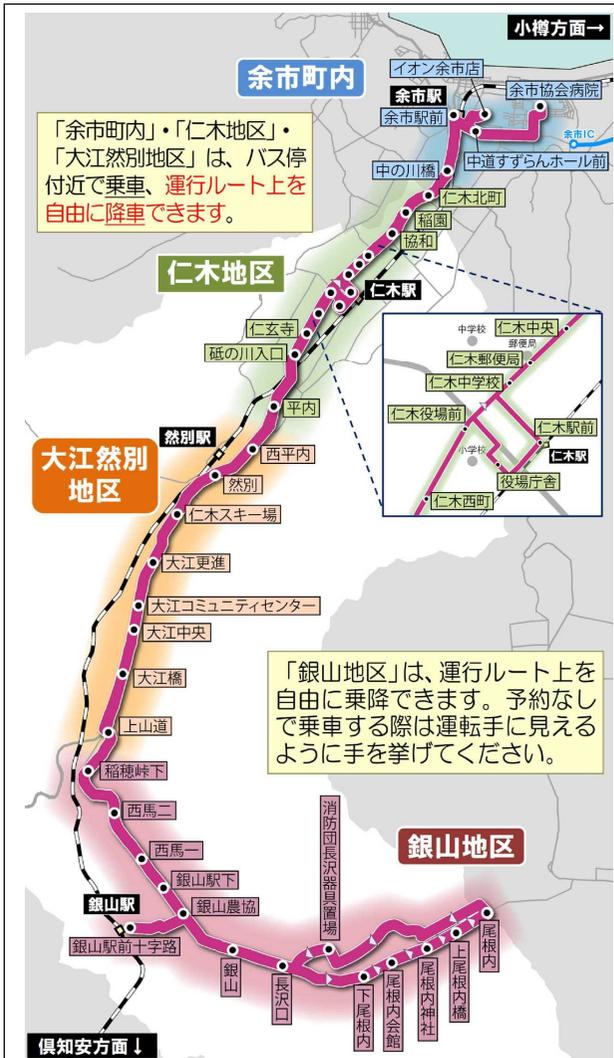
主な協議事項:ニキバスの事業評価について

令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

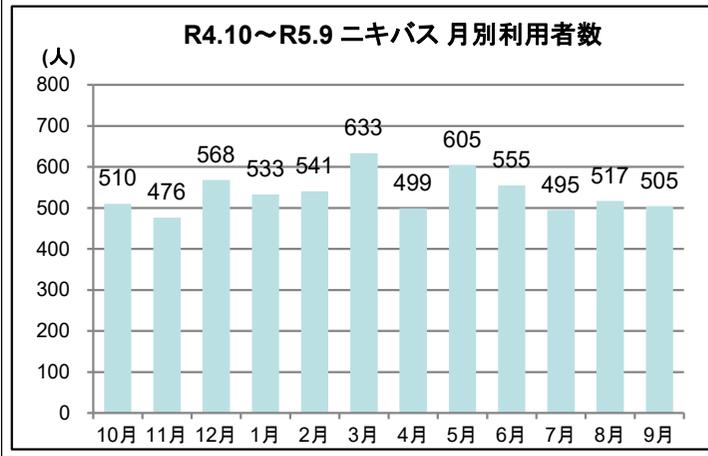
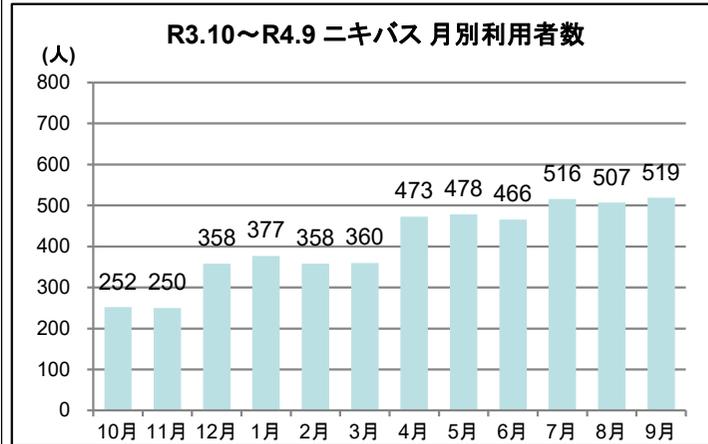
- ・ 空白地域における新規路線の導入及び既存路線強化に向けた検討を推進した。
- ・ 令和4年10月から予約なしで乗車が可能な定時定路線としての本格運行を開始した。
- ・ 町の広報及びホームページにて広報活動を実施した。

2) 運行系統



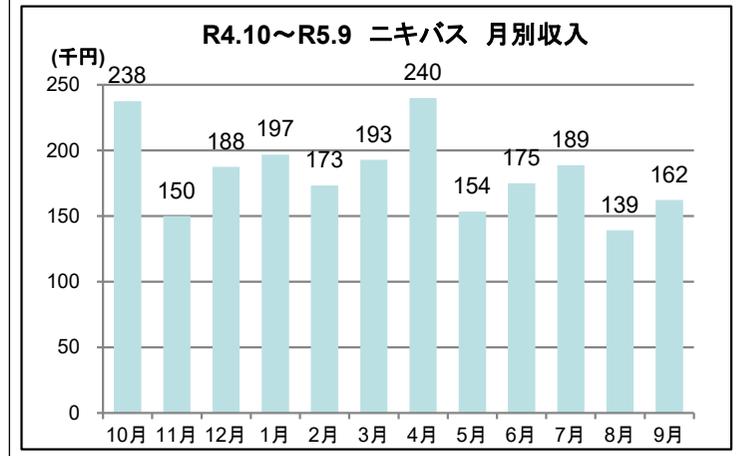
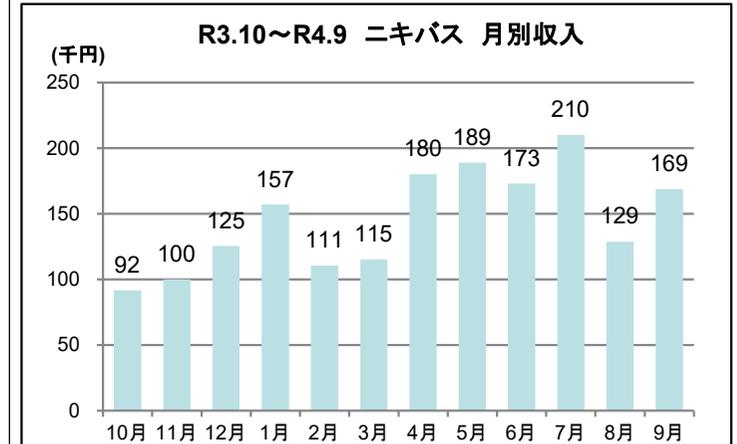
3) 利用実績

年間利用者数は、下図のとおり。
 令和4年度は4,914人
 令和5年度は6,437人



4) 収入実績

年間収益は、下図のとおり。
 令和4年度は1,750,150円
 令和5年度は2,197,850円



5) 事業実施の適切性

- ・計画通り事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

既存路線の強化(増便等)や公共交通空白地域における新規路線導入による乗継利用促進等により、利用者の増大を図る。(目標①、目標②への対応)

広報活動等による意識醸成による、利用促進を図る。(目標①、目標②への対応)

6) 目標・効果達成状況

【目標①】ニキバスの運行経費(町負担額)は、1,329万円と、目標の1,500万円/年を下回り、目標達成となった。

【目標②】ニキバスの全体利用者数は、17.6人/日と、目標の16人/日を上回り、目標達成となった。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・利用実績や収入実績は前年度を上回り、目標を達成することができており、今後も地域公共交通計画に基づき、更なる利用促進の取組を期待する。